

令和5年度フレンズジム滝谷事業者向け 事業所自己評価アンケート

2023年9月実施

配布数10

回収数10

回収率100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	90%	10%	0%	10人を定員としているため狭いと感じることもあるが、人数に合ったスペースの活用ができています。
	②	職員の配置数は適切であるか	82%	9%	9%	・足りないこともあるが適切に配置できている。 ・戸外へ行く時はなるべくマンツーマンでつけるようにしている。
	③	事業所の設備等は安全面の配慮が適切になされているか	90%	10%	0%	子どもの様子や活動によって環境を変え、安全に行えるようにしている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	90%	10%	0%	担当や役割を決めたり、ミーティングの開催により業務改善のための課題抽出や結果を報告し、改善に努めている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	90%	10%	0%	年に一度、評価アンケートを実施し、それを基に改善に努めている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	90%	10%	0%	自己評価の結果をホームページに公開。またフレンズジム通信に掲載している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	64%	27%	9%	頻度は少ないが、活動の様子を見てもらう機会を設けている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	0%	0%	毎月スタッフミーティングの際に研修をしたり、事業所外部からの研修の機会が設けられている。
適切な 支援	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	90%	10%	0%	児童、保護者のニーズや課題を分析し、個別支援計画を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	73%	27%	0%	標準化された個別記録を取り、アセスメントに活用している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	90%	10%	0%	基本は常勤が活動プログラムを立てているが、月に一回常勤での打ち合わせにてプログラムを検討し、目的等決めることができる。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	100%	0%	0%	平日、休日は週ごとの項目に合わせた支援を行っている。長期休暇は外出やイベントなどを設定し、実行できている。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	0%	0%	集団での一斉活動の中にも個別に支援を検討した上で個別支援計画を作成している。

の 提 供	⑮	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	0%	支援開始前に内容や送迎の担当、必要であれば、業務の担当や役割、個別の支援について打ち合わせできている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%	0%	0%	開始前の打ち合わせ時に引き継ぎしている。個別記録記入時にスタッフ間で情報を共有しながら振り返りを行っている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	0%	個別に合わせた記録書式を使用し、定期的に振り返りを行っている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	90%	10%	0%	半年に一度、必要時には課題整理表にて振り返り、計画の見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	90%	10%	0%	ガイドラインの基本活動を組み合わせて支援を行っている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	90%	10%	0%	サービス担当者会議へは児童発達支援管理責任者が参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	100%	0%	0%	幼稚園や保護者とこまめに連携を図り、適切に連絡調整を行っている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	9%	36%	55%	現在該当する児童はいないが、利用時は保護者と相談。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	82%	9%	9%	就学の児童はいないが幼稚園や保育園、こども園との情報共有は行っている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	64%	36%	0%	就学の児童はいないが、児童発達支援から放課後等デイサービスに移行する児童の情報を移行先の事業所へ情報を提供している。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	73%	27%	0%	地域の発達センターや相談支援専門員などとの連携を図り、研修を受ける機会もある。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	45%	45%	10%	戸外活動の際に関わることもある。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	36%	55%	9%	頻度は少ないが、外部研修がある際は積極的に参加している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	0%	連絡帳や送迎時、LINE、電話、定期的な面談にて様子を共有し、発達の状況をや課題について共通理解を持っている。
㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	55%	36%	9%	面談時やこども対応について相談があった際にはアドバイスをを行い、その後の振り返りを共有している。	

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	0%	契約時に説明している。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	0%	実行できている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	82%	18%	0%	定期的に親子活動や保護者懇談会を設けている。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	90%	10%	0%	苦情があった際には管理者への報告と本社への報告の体制が整備され、迅速に対応できている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	毎月フレンズジム通信を配布し、ホームページにも掲載している。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	90%	10%	0%	個人情報は鍵付きのキャビネットに保管している。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	90%	10%	0%	視覚支援ツールを用いている。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	18%	64%	18%	行っていない。
非常時の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	100%	0%	0%	保護者や職員にマニュアルを配布し、周知している。また定期的に研修を行っている。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	0%	年に三回、地震発生時と火災発生時、防犯訓練を行っている。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%	該当する児童がいないが、虐待防止研修を定期的に行い身体拘束を行う場合について共通理解している。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	82%	18%	0%	現在、対象児童なし
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	64%	36%	10%	保護者から伺い、対応している。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	0%	ヒヤリハットを作成し、事業所内で共有している。

〈総括〉

普段から職員間でのコミュニケーションが活発にあり、高め合える関係を目指した組織風土作りを行ってきています。今年度も職員全体に向けた研修機会を設けることや、活動のプログラム内容や施設内の安全面に配慮した意見交換、お子さんの課題に応じた支援の方法などについて職員で話し合う機会が多く設けられました。今後も必要最小限の研修にとどまらず、より専門性を向上させていけるような学びの機会を多く設けていけるよう、さらなる努力を重ねていきます。

今回の評価を受け、お子さんの人数に対しての職員の配置数、各マニュアルの周知、保護者同士の連携を図れる機会などが検討すべき課題として抽出されました。職員の配置に関しては、活動のプログラムに応じた人数や支援が必要な場面に職員を配置できるよう留意していますが、よりスタッフ間で意見交換をしていけるよう打ち合わせでの声掛けを実施していきます。各マニュアルについては、一通り確認するのみになっているマニュアルもありますので、折に触れて確認していけるような工夫を検討していきます。保護者同士の連携を図る機会については、親子活動やイベント、懇談会の機会を定期的に設けていましたが、どの職員も保護者同士の連携の場に直接関わられるような内容の懇談会や活動を検討していきます。